

平成31年(2019年)度 受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

(一財)春日若宮おん祭保存会 (奈良県奈良市)

地域伝統芸能大賞 保存継承賞(第1類) : 地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

平戸神楽振興会 (長崎県平戸市)

地域伝統芸能大賞 活用賞(第2類) : 地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会 (東京都杉並区)

地域伝統芸能大賞 支援賞(第3類) : 衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

丸尾 万次郎 (奈良県奈良市)

地域伝統芸能大賞 地域振興賞(第4類) : その他特に顕著な貢献のあったもの

あらしやげ会 (鹿児島県奄美市)

地域伝統芸能奨励賞

神戸市立神港橘高等学校龍獅團 (兵庫県神戸市)

受賞者 プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

(一財)春日若宮おん祭保存会 (奈良県奈良市)



春日若宮おん祭は春日大社の摂社若宮神社の祭礼で、12月15日の大宿所詣、16日の宵宮祭、17日未明の遷幸の儀からはじまって昼にお渡り式があり、興福寺南大門交名の儀、松の下式、御旅所祭、遷幸の儀と続き、18日の後宴能で終わります。関白藤原忠通の時代、保延2(1136)年9月17日にはじまったとされ、古くは9月17日の祭礼でした。室町期からは原則的に11月27日となり、近世まで興福寺の主導によって祭礼が維持されています。明治以後は春日大社の祭礼として現行の12月17日に定まりました。ハイライトは12月17日の御旅所祭です。春日大社の摂社である若宮神が遷られた御旅所へ芸能をする人々が正午よりお渡りをし、神楽・東遊・田楽・細男・神楽式・和舞・舞楽といった古代・中世の代表的な芸能が深夜まで御旅所で若宮に奉納されます。日本の古い伝統芸能を集約したような芸能尽くしの祭礼です。

地域伝統芸能大賞 保存継承賞(第1類) : 地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

平戸神楽(ひらどかぐら)振興会(長崎県平戸市)



平戸神楽は宮崎の高千穂神楽と並んで九州を代表するものと言われていきます。元禄時代、平戸松浦家29代鎮信(しげのぶ)【天祥(てんしょう)】の時、家臣橘三喜が全国の一の宮の参拝を試み、見聞した神楽の粋を集めて作った神楽です。藩主の手厚い保護を受け、藩内の神社の大祭には必ず奉納され、現在に至っています。24番の舞からなり、天孫降臨的一幕を演じる「猿田彦」、相撲の技を神楽化した「神相撲」や3本の真剣を使う「二剣」の舞は、緊迫感あふれるものです。

平戸神楽を通じて伝統芸能や伝統的町並みを活かしたイベント等を開催しています。毎年行われている平戸くんちでは、亀岡神社にて秋季大祭の10月26日に大々神楽(1番~24番)が奉納されています。

また、平戸神楽振興会によって毎年後継者育成のため、小学生から高校生を対象とした講習会が実施され、平戸神楽の保存継承が図られています。

NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会（東京都杉並区）



昭和32年（1957年）に街の賑わいを創出するために商店街の青年部の企画で始まった「阿波おどり」は平成30年度、62回を迎えました。当初、観客は約2,000人でしたが、今や、開催2日間で、参加連168連、踊り手約1万人、観客は延べ約100万人が集まる「東京の夏の風物詩」と言われるまでに成長しました。

約100万人の観客が集まることで、多くの経済効果が生まれ、特に飲食店では平常時の10倍以上の売り上げとなります。さらに、当日は高円寺だけでなく、隣の阿佐ヶ谷、中野まで客足が伸びています。また、東京高円寺阿波おどりの実施に当たっては、地元の8商店会が連携して取り組むなど、地域全体の商店街振興に寄与しています。また、大学生を中心としたボランティアチーム「チームハピネス」の活躍は、地元の小中学生とも連携するなど、青少年の育成にもつながる有意義な活動となっています。近年、台湾やフランスをはじめ多くの外国人観光客が訪れるようになり、日本の伝統・文化を海外に発信するツールまでに成長を遂げました。

また、年間を通じて観光客の誘致を図ろうと「高円寺阿波おどり体験」プログラムを企画・実施し、阿波おどりを通じて新たな観光資源の開発にも積極的に取り組んでいます。

実際の外国人観光客のインターネット上の反応でも、訪日および祭りへの参加意思を示す内容が目立つなど、東京高円寺阿波おどりは、訪日観光の目的としても大きな功績を果たしています。

丸尾 万次郎（まるお まんじろう）（奈良県奈良市）



丸尾万次郎氏（昭和14年生まれ）は能面師として面打ちをはじめて48年続けています。春日大社や當麻寺をはじめとした伝統芸能に使用される多数の能面や舞楽面を作り、県内の民俗芸能の伝承に対して尽力し、大きな貢献を果たしてきました。また昭和57年より自宅工房で能面教室を開催しており、後継者の育成にも熱心であります。

昭和62年に舞楽面「綾切」4面をはじめ、平成2年「蘭陵王」、平成3年「崑崙八仙」「貴徳」、平成7年「納曾利」、平成16年「還城楽」のように春日大社で行われる舞楽の面を制作し、さらに平成8年から12年までは當麻寺の聖衆来迎練供養会式に使用される26の様々な菩薩面を製作するなど、県内の文化財指定されている伝統芸能の様々な面を作り続けてきました。また黒川能（山形県鶴岡市）の能面等の製作も手掛けています。

あらしやげ会（鹿児島県奄美市）



あらしやげ会は平成23年1月に設立しました。民謡日本一の「築地 俊造」を中心に唄と踊りをこよなく愛するメンバーが奄美の伝統文化特に八月踊りの継承を通して奄美の地域振興と中心商店街の活性化を目的に活動しています。毎月第1・第3日曜日に観光交流センターA i A iひろば（中心商店街）で、練習を開催しており、地元の人はもちろん、観光客も飛び込みで参加することができ、「八月踊り」体験の場にもなっています。この踊りの最大の特徴は、男女が唄を交互に出しながら輪になって踊られることです。八月踊りは、踊っていく中でどんどんテンポが速くなっていきます。これを「あらしやげ」といいます。

あらしやげ会会員数は33名で年齢層は11歳～82歳と幅広く、先輩から後輩へと繋いでいくという基本理念の下、伝統芸能の保存や後継者育成にも尽力しつつ、観光振興及び中心商店街の活性化等にも大きく寄与しています。

「八月踊り」は主に奄美の集落で踊られており、その舞台は集落です。あらしやげ会は「名瀬のまち」を舞台にして活動していることもあり、最近では地元の人や観光客にもより浸透してきております。このようなことから、今後の活動が大きく期待されている団体です。

**神戸市立神港橋（しんこうたちばな）高等学校 龍獅團
（りゅうしだん）（兵庫県神戸市）**

神戸市立兵庫商業高等学校龍獅團（～平成30年3月31日）が、獅子舞・龍舞に取り組み始めたのは、文化祭のため、神戸の土地柄を生かしたものを探る中で、神戸市地域無形民俗文化財に指定されている南京町「春節祭」の獅子舞に着目したのがきっかけです。1988年（昭和63年）文化祭で中国の獅子舞を披露して以来、学校の特色を生かして活動を続けています。神戸市中華街「南京町」で開催される「春節祭」や「中秋祭」をはじめ、各地域の祭り等で演舞を披露し、世界大会（香港）で何度も入賞し、「全国高等学校総合文化祭」郷土芸能部門でも二度文化庁長官賞を受賞しています。神戸の伝統芸能を青少年の教育・育成に生かし、阪神・淡路大震災以降「春節祭」に継続的に出演するなど地域に希望を与える無くてはならない存在となりました。

神戸市立神港橋高等学校龍獅團（平成30年4月1日～：神戸市立兵庫商業高等学校を統合）は、その伝統を受け継ぎ活動しています。シンガポール・マレーシアで開催された龍舞の国際大会でシンガポール大会3位、マレーシア大会2位の成績を収めるなど高い演技力を有し、獅子舞を通じた国際交流に積極的に取り組んでいます。